

自分にとって一番大切なものが、【たからもの】であることは論をまたないことと思います。ただ、個々人の年代に応じて【たからもの】は変遷していきます。

私事で恐縮ですが、小学生～中学生の頃は、図書室（図書館）が書物の【宝庫】で大好きでした。「子ども」時代は成長するにつれ、分からないこと、知らないことがたくさん出現しますが、書物を読めば、答えが得られました。そして、高校生では部活（剣道

部）でした。ハードな練習に耐えきれず退部する同級生もいましたが、私は自分の忍耐力が試されていると判断し頑張り抜くことができました。後付けですが、これらの経験も【たからもの】です。大学生になると、憧れの京都で下宿生活を送ることとなり、休日に歴史の【宝庫】を訪ね歩くことができました。

24歳～65歳までは、仕事（外科医）が一番大切なものでした。このためには、長時間の時間外労働も厭いませんでした。現役時代は



## 医界サロン

# たからもの

広報委員 中島 康夫

精神的・身体的に持ちこたえていましたが、前期高齢者の仲間入りをした途端、種々の疾患に罹患し、手術も受け、現在は5種類の内服薬の服用を余儀なくされています。現在の我が身の状況を踏まえて、「医師の働き方改革」の動向を注意深く見守っています。

65歳時に初孫誕生、68歳時に2人目の孫が生まれました。正真正銘の【たからもの】です。孫の成長を見届けるために長生きしたいと思っています。同じ通勤距離を自動車→電車→徒歩とし、体力の低下を防ぐべく努力しております。しかしながら、最近のニュースを見ると幼児の悲惨な事故、事件が報道されています。ご家族の心中をお察しすると不覚にも涙がこぼれます。政治家の皆様、官僚の皆様、子どもの事故、事件を防ぐ手立てがあれば即刻実施してください。

令和4年10月21日、某全国紙朝刊2面の「金言」に以下の記事が掲載されました。イ

タリア上院には6人の終身議員がおられますが、その中の1人が新しく招集された議会の暫定議長を務めるとのことです。92歳のリリアナ・セグレさんが議長席につき演説を始めました——1930年代の欧州では、多くの国が反ユダヤ法を作りました。イタリアでは1938年、人種法を制定。セグレさんはこの時自分がユダヤ系だと知りました。1944年1月、13歳の彼女は、アウシュビッツへ送られました。収容された14歳未満の子ども776人のうち、生き残ったのはセグレさんら25人（わずか3.2%）とのこと。不覚にもまた涙——。

愛する日本でこの様な非道なことが起きないことを切に願っております。孫をお持ちの皆様、将来持つであろう皆様、【たからもの】を守るために、健康で長生きしましょう。

この原稿を、大泉逸郎さんの「孫」をスマホで聴きながら、書き上げました。

～孫という名の宝物～。